

えんぼとたんぼの始発駅 里山ビオトープ二俣瀬	会 報 第 135 号	2012年10月23日 里山ビオトープ二俣瀬をつくる会 編集責任者：西原 一誠
---------------------------	-------------	---

1. 活動報告（事務局 記）

—10月7日（日） 秋晴れの中、稲刈り準備・エコアップと生態系協議会へ提案の項目説明会等有意義に行う事が出来ました。16名の参加でした。

① 稲刈り準備 田んぼの周り草刈・避け路の溝上げ

② エコアップ 湿地帯のスゲ間引き・タテバチドメクサ駆除・溜池イグサ間引き・カナダ藻の駆除

③ 勉強会 宇部市生態系協議会へ当会から提出する意見について発表の協議でした。

④ 次回の稲刈りでのイベントとして、おむすびつくりと猪鍋をふるまう事になりました。

※避け路溝上げの時沢山のドジョウが捕獲されました。鑑賞の後全匹蓮田に戻しました。

—10月13日（土）①臨時参集し、田んぼの周囲稲刈りをして、一列のハゼかけをしました。土壌は良く乾燥しており20日は雨が降っても作業可能です。

②水路修理 全く水が流れず溜池・湿地帯の水の水位が底をついていましたので調査し破損箇所を修理しました。

今井会長・藤村・吉富・金子・原田にて実施しました。

—10月20日（土）親子自然観察隊は「稲作体験」の（稲刈りとハゼかけ）を二俣瀬子ども会の皆様と体験しました。参加者は観察隊12名、保護者隊員8名、会員22名、二俣瀬子ども会13名、保護者8名、校長先生、市民センター長、合計65名の参加でした。

9時より開会の話と注意等があつて、稲刈りとハゼかけを子供を中心に体験し10時半には済みました。そのあと会員女性方がつくられたむすびと猪鍋をおいしく食べ11時半今年の稲刈り体験を終わりました。

—10月22日（月）急遽22日の午後脱穀をしました。夕刻より乾燥を機械式で行い、23日夕刻に粃すり（臼挽き）を行いました。脱穀には今井会長・渡邊正・藤村・原田宗・原田マ各会員にて急遽実施し、粃すりは吉富匡会員にお願いしました。

2. 今後の予定（事務局 記）

◎見学者

— 9月20日（木） 読売新聞社 古田宇部市局長が来訪

特集記事「二俣瀬」のうち “ビオトープ”紹介記事を収集。今井会長と原田事務局にて対応しました。掲載月日は現在不明。（10月下旬だそうです）

◎行 事

—10月未定 稲脱穀（天候と乾燥具合により日程決定）

—11月04日（日）維持活動（エコアップを主体でおこないます）

—11月24日（土）親子自然観察隊：里山の暮らし

3. 来訪者の声

今月はありません。

4. 会員の声

今月はありません。

5. 親子自然観察隊 「稲作体験」 事務局よりお伝え

秋晴れの中、おおぜいの人で稲刈りを行いました。会としては、現在の農業の主流となっているすべてコンバインでの刈取り・脱穀可能な機械を使えば僅か1時間位あれば完了するが、目的が、昔風な（昭和時代）現在の老人が若い時行ったきつい作業を伝承し、後世に伝えてほしく行っているものです。

6月16日に同じようにみんなで田植えして丁度4カ月で刈り取りが出来ますが、その間にも草取り・畦の草刈・中干し等の水の世話・イナゴ捕り・猪からの防御・病気の管理等々沢山の仕事をしたうえでの収穫を忘れてはいけません。子どもさんたちにはこのことは体験できませんので機会あるごとに口で伝承することが大事ではないかと思います。

親子自然観察隊・二俣瀬子ども会・つくる会ほか市民センター長、小学校校長総勢65名で、僅か45アールの田んぼに、いもの子を洗うがごとく鎌を持ち、束ねる藁を持ち、ハゼかけの竹を立てるものありで、たいへんにぎやかに楽しく体験できました。

終了後は恒例の女性会員の作られた猪鍋とおむすびを参加者総勢で食し。かりみて（刈末て）のねぎらいをしました。

9月15日の観察隊（秋の昆虫）の感想

★大井千晴さん

あれから、また急に秋らしくなったように思います！秋の昆虫探しでは、たった数時間の里山散策でしたが、驚きな発見・体験をしました。けして長い道のりを歩いたわけではないですが、里山に一日ワープしたように充実していて、とても新鮮な時を親子で過ごさせて頂きました。家族だけで散策をしても、あんなときめきには出逢わないだろうし、やはり観察隊ならではの昆虫探しで、改めて参加できたことに感謝しています。

★山本洋伸さん

今回はちょうど台風前もあってあまりいい条件ではありませんでしたが、オニヤンマにはビックリでした。さすが日本最大といった貫禄でした。子供もあんなに身近で見る機会はそう無いので良い経験だったと思います。

★金子 揮壺くん

昆虫の名前を詳しく教えていただいてとても勉強になりました。
これからもこの活動でやったことを生活に生かしたいです

6. ビオトープ関連（ビオトープのトンボたち）（ 管 哲郎 記）

（53）ミルンヤンマ（ヤンマ科・ミルンヤンマ属） *Planaeschna milnei*

日本特産種のトンボで北海道南部から沖縄地方、南西諸島にまで分布しますが、北海道や東北地方北部では局地的とされており、どちらかといえば暖地型のトンボのようです。

黒地に黄色い斑紋があり、複眼の大きなヤンマ。コシボソヤンマのように腰の部分がかくびれている全体的にほっそりしきゃしゃな感じのヤンマです。

山間の森林に囲まれたやや陰湿な溪流に棲息します。6月ごろより羽化を始め、成虫は夏から秋にかけて見られます。成虫は日中は殆ど見ることはなく、林や森の中に潜んでおり、黄昏飛翔性が高く、カトリヤンマ、コシボソヤンマなどに混じって夕方薄暗くなってから溪流沿いの農道や林道などに出て低い位置を飛び、盛んに摂食します。雨上がりの曇り空の中、低空を集団で飛翔することもあります。溪流沿いの木の枝などに休止している本種を見ることができますが、多くはみつきりません。



ミルンヤンマ ♂（側面）



ミルンヤンマ ♀

ミルンヤンマ♂
（正面）→



7. 会よりの連絡事項（事務局より）

（1）新入会員をご紹介します。

以前より活動に参加されて居られますのでご存じの方も多いと思います。

改めて会員になって頂きました。今後の活躍を期待します。

氏名 萩野詩季

住所 山口市黒川 882 ハイヅきら 201

- （2）11月の親子自然観察隊「里山の暮らし」の行事は、今回の脱穀で稲束の残りが無くなりましたので、当初考えていた、千歯による脱穀・足踏脱穀機の脱穀は出来なくなりましたので、ほかの材料方法で「里山の暮らし」を行います。

8. 編集後記

稲刈りも終わり、秋から冬へと季節は移っていきます。9月22日の秋分の日から、暦での二十四節気は秋分（秋のお彼岸）となり、秋分は、雷乃声を収む・蟄の虫戸を坏す・水始めて涸れるの三候に分けられる。こうして二十四節気は、
寒露（露が冷たく感じられてくるころ：鴻雁来る・菊花開く・蟋蟀戸に在り）
霜降（霜が降りるころ：霜始めて降る・雲時施す・楓蔦黄なり）
そして冬の立冬を迎える。

このように日本の暦では、二十四節気と七十二候があり、雑節として土用・八十八夜・入梅・半夏生・二百十日などがある。これは農業などではとても重要なことであり、私達自然環境に携わる者としても非常に参考になります。季節の旬を感じて楽しむということは、維持活動の中でも重要な要素だと思います。

（参考文書：東邦出版(株)「日本の七十二候を楽しむ」）

尚、日本気象協会では、専門委員会の設置やシンポジウムの開催などを通して、広く一般の方々からの意見を募集し、2012年秋を目途に日本版二十四節気を提案する予定だそうです。

（西原 一誠 記）